

# Music Library Tool (MP3 ファイル管理アプリ) マニュアル

可不可

2011 年 2 月 19 日

## 目次

1	はじめに	1
2	このアプリでできること	1
3	インストール	1
4	データー一覧	2
4.1	データの作り方 . . . . .	2
4.2	絞り込みしてみる . . . . .	4
5	Excel、PDF(歌集) に出力する	4
5.1	Excel . . . . .	4
5.2	PDF . . . . .	5
6	右クリックでできること	5
6.1	InfoMaster との連携 . . . . .	6
7	表示をカスタマイズする	6
8	注意	7
9	今後の改良点	7

## 1 はじめに

MP3 で音楽を聞いてしばらくになります。ファイルの扱いは、CD から MP3 化して、音楽ライブラリ用のフォルダに放り込んでおきます。その中から iTunse にコピーして iPod でも聞きます。

そのうち、FM を録音して MP3 にもするようになり、気が付くと、ライブラリのフォルダには 2000 曲の音楽ファイル、延べ 100 個余りのサブ・フォルダができてしまいました。

一応、タグを付けてフォルダに入っていますが、同じ曲が別のフォルダにあったり、カバー曲を同じものと思って削除した、ということも起こるようになりました。

そのようなことないように、ライブラリ中を一括検索したい、iTunes にある曲を取り出したい、別フォルダに分かれているアーティストの一覧が欲しい、という、音楽ライブラリを一元管理するアプリが欲しくなりました。統合化されたアプリもありますが、操作が面倒なので、簡単に使える単機能の物を作ってみました。<sup>\*1</sup>

## 2 このアプリでできること

このアプリでできることを挙げてみます。

- iTunes を含む複数フォルダーのタグ一覧を表示
- その中からタイトル、アーティストで絞り込みができる
- ダブっている時のために、選択した曲を削除できる
- CD に保存する時のために、選択した曲を別フォルダにコピーできる
- 表示したタグを Excel シートに出力する
- 歌詞、写真のある曲は 1 曲 1 ページに PDF ファイル出力できる (歌集機能)
- InfoMaster<sup>\*2</sup>と連携でき、タグ編集ができる

アプリ単独の印刷機能はありませんが、Excel に出力するので、並び変え、印刷フォーマットはそちらの方で、ユーザーのお好みで行えます。(手抜き、でもありますが)

## 3 インストール

### 本アプリ動作に必要なもの

.NETFramework 3.5SP1

InfoMaster と連携させる場合、は 4.0 が必要です。

以下からダウンロードしてインストールしてください。インストールにはかなり時間がかかるので、ご注意ください。

- Ver 3.5SP1

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/cc378097>

- Ver 4.0

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/ff687189.aspx>

### 起動

.NETFramework をインストールしたら、本アプリを適当なフォルダに解凍します。その中にある”ML-Tool.exe”をダブルクリックすると起動します。レジストリを使っていませんので、アンインストールの時はそのフォルダを削除するだけで OK です。

---

<sup>\*1</sup> Windows XP, Vista で動作確認しました

<sup>\*2</sup> 私が作った画像、歌詞タグも編集できるタグエディタ

## あればいいもの

### InfoMaster

本アプリと連携する場合、以下からダウンロードしてインストールしてください。ver1.1 でないと連携できません。<sup>\*3</sup>

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/net/se485375.html>

### Excel

表示データを Excel に出力する時使います。Excel2007 で動作確認しています。

## 4 データ一覧

音楽ファイル (MP3) を含んでいるフォルダーを「ミュージックライブラリ」略して「ライブラリ」と呼ぶことにします。もちろん、iTunes もライブラリです。

本アプリ (MLTool) は、このライブラリのタグを読み込んで、表示します。毎回、表示のたびにファイルを読み込むと時間がかかるので、タグのみを別ファイル (ライブラリ・データ) に記録しており、そちらを読み込んで高速に表示しています。

最初に起動すると、ライブラリ・データがないので、何も表示できませんし、データがないというメッセージが出ます。まずライブラリ・データを作る必要があります。

ライブラリ・データがないというメッセージを無視して起動すると図-1 のようになります。

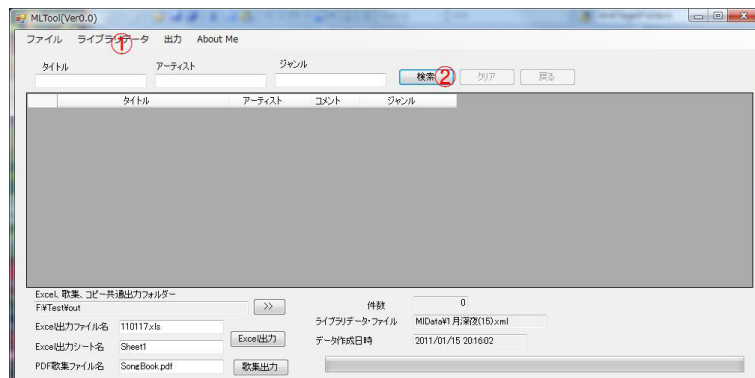


図 1 データがない場合の一覧表示

### 4.1 データの作り方

データファイルを作るには、図-1 のメインメニュー ①「ライブラリデータ」から「ファイル作成」をクリックします。すると、図-2 のようなウインドウが表示されます。

図-2① に、表示したいフォルダ、ファイルをドラッグ&ドロップします。

<sup>\*3</sup> この場合、.NETFramework 4.0 が必要

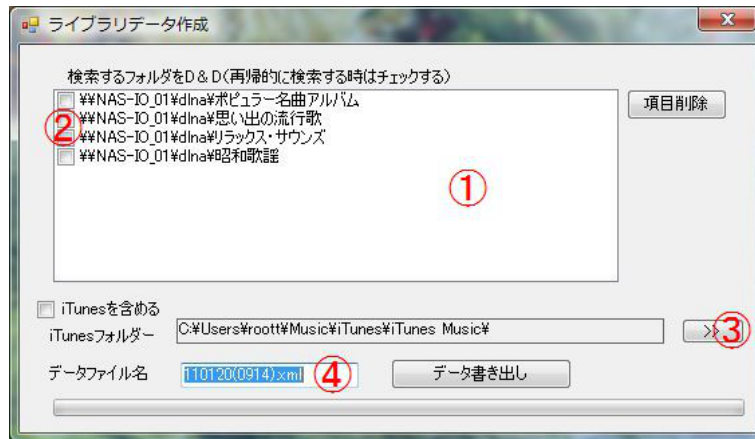


図2 データ作成画面

フォルダの中まで、再帰的に取得するには フォルダのチェックボックス ② をチェックします。iTunes フォルダは自動的に再帰的に取得します。iTunes フォルダはデフォルトは C:ですが、別の場所にインストールしている時は、③ で変更してください。

④ で出力するファイル名を設定します。出力するフォルダは、カレントフォルダの中に MIData というフォルダを作ります。出力するファイル名を設定したら「データ書き出し」をクリックすると、データファイルができます。

たくさんのファイルのあるフォルダの処理時間は、かなりかかります。<sup>\*4</sup>図-2 で「反応がない」と表示されますが、処理は継続しています。気長にお待ちください。しかし、まれに、原因不明のハングアップが発生することがあります。同じ条件でも、問題なくデータを作成することもあるので、そのような時は、再度、お試しください。

データファイルができたなら、データ作成ウィンドウを閉じて、メインウィンドウ (図-1) に戻ります。「検索」(②) をクリックすると、フォルダのタグを表示します。(図-3)



図3 データ表示画面

表示を完了すると「検索」は「絞り込み」に変わります。

コメント、歌詞データは改行コードが入っていますし、画像は文字データではないので表示しません。その代わりにそのデータがある時は、\*C\*, \*P\*のように表示します。

希望するファイルを絞り込むには次節をご覧ください。

<sup>\*4</sup> Vista(2.6G) で、2100 件のデータ作成に 3 分弱かかりました

## 4.2 絞り込みしてみる

ライブラリ内を一覧している状態で、タイトル、アーティスト、ジャンルを絞り込みできます。

「検索」ボタンが「絞り込み」に変わった状態で、検索文字を①に入力して「絞り込み」をクリックすると、絞り込み表示します。

検索文字の一部でもあればヒットします。各項目は「かつ」(論理和、AND)で結合します。

例(例が古くてすみません)

アーティスト：クレイジ

他空白

「クレイジーキャッツ」「ハナ肇とクレイジーキャッツ」にヒット。

(私のライブラリには「クレイジーケンバンド」は入っていませんが、あればヒットするはずです)

さらに

アーティスト：クレイジ

タイトル：ハイ

とすると、「クレイジーキャッツ」の「ハイ それまでヨ」がヒット

「戻る」で全データ表示の状態に戻ります。直前の状態ではないのでご注意ください

「クリア」で画面がリセットされ、別のライブラリデータを選べます。

## 5 Excel、PDF(歌集) に出力する

表示されているデータを Excel シート、PDF ファイルに歌集の形で出力することができます。図-3 の③に設定したフォルダに出力します。

出力したくないデータは右クリックのメニューで非表示にしておいてください(6 ページ)。また、表示されていない列を出力したい場合は、表示させてください(7 ページ)。

### 5.1 Excel

一覧表示したデータを Excel に出力できます。④の「Excel 出力ファイル名」、「シート名」を指定して「Excel 出力」をクリックすると出力されます。同一ファイル名でも違うシート名で保存できます。

シート名は空白、31 文字以上は使えません。また、次の半角文字、:./?,[,] が入っていてもだめです。

図-3 のメイン・メニュー「出力」の「出力先を開く」で保存先のフォルダーが開くので、確認できます。

作成された xls ファイルを最初に開こうとすると「形式が違う」とかいうメッセージが出ますが、「はい」で開けます。保存しなおせば、次回からは出なくなります。

B 列に指定していないファイルパスが出力されますが、参考のためですので、必要なければ削除してください。

## 5.2 PDF

一覧表示では歌詞、コメント、画像はデータの有無しか分かりません。すべてのタグを表示するにはこの機能を使います。1曲 A4 用紙 1 ページで図-4 のように表示します。<sup>\*5</sup>

Excel 保存と同じように、保存先、ファイル名を指定して、「歌集出力」をクリックします。同一ファイル名は使えません。上書き保存されます。

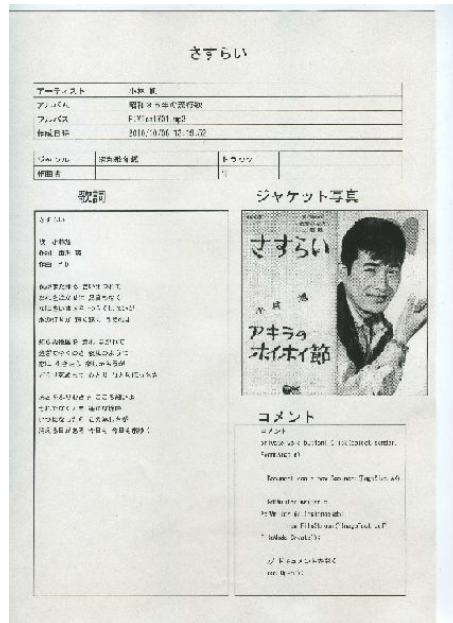


図 4 歌集

## 6 右クリックでできること

表示されているファイルを選択した状態（クリックして色が変わった行）で右ボタンをクリックすると図 5 のメニューが出ます。

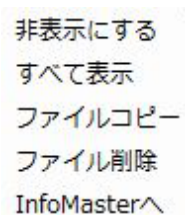


図 5 右ボタンをクリックで出るメニュー

選択されている行（複数）を対象とする処理が選べます。

### 非表示にする

対象行が非表示になります。Excel、PDF 出力は、表示データのみですので、対象行が出力されません。

### すべて表示

非表示データがすべて表示されます。（図-3「もどる」と同じ）

<sup>\*5</sup> 歌詞、コメント欄に入らないような長いものは、途中で途切れます。

### ファイルコピー

対象行がフォルダにコピーされます (図-5)。

### ファイル削除

対象行が削除されます。ダブっている曲を削除する時に使いますが、ライブラリ・データファイルとの整合性が崩れるので、データファイルの再作成が必要です。

InfoMaster へ

(次節)

## 6.1 InfoMaster との連携

InfoMaster は私の作った MP3 タグエディタです。歌詞、画像も編集でき、ネットから歌詞、画像を検索できます。

ファイルを選択して、右クリックで送ると、InfoMaster を起動して、対象ファイルを編集できます。あとは InfoMaster の機能を使って、タグ編集、歌詞取得できます。

対象ファイルは、現ライブラリのデータですから、ライブラリデータを再表示すれば、InfoMaster で編集したデータが表示されます。<sup>\*6</sup>

## 7 表示をカスタマイズする

「作曲家」「年」などあまり利用されていないタグはじゃまなので、非表示にしましょう。

メインメニューの「ファイル」の「データ表示設定」をクリックすると、図-6 が表示されます。チェックを付けたタグのみ表示されるので、非表示にしたいタグのチェックを外します。

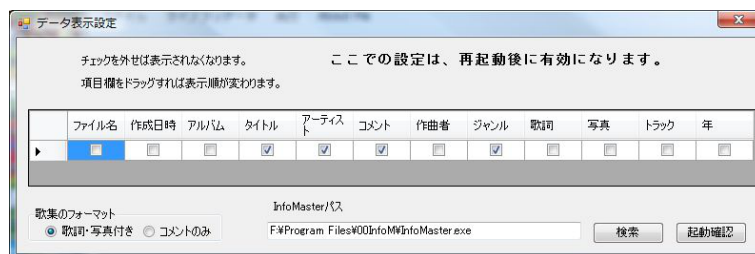


図 6 表示カスタマイズ画面

タグの表示順を変えることもできます。動かしたい項目のヘッダーをクリックしたままドラッグすれば移動できます。

ここでの設定は、再起動後に有効になりますので、設定を有効にしたければ、いったん、終了します。

### InfoMaster パス

本アプリから InfoMaster 起動するためのパスを設定します。設定後、「起動確認」をクリックして、InfoMaster が起動できれば OK です。

### 歌集のフォーマット

PDF 出力の時にコメントのみを出力する設定です。私は、FM 放送を丸ごと録音し、全曲目をコメント欄に書込むので、このような設定が必要です。普通は「歌詞・写真付き」のままでいいです。

<sup>\*6</sup> この機能はまだ不安定せず、うまく動作しないことがあります

## 8 注意

データ作成画面 (図-2) で「反応がない」になる

たくさんのファイルのあるフォルダの処理時間は、かなりかかります。処理は継続しています。気長にお待ちください。

Infomaster にデータが渡らない

データ表示画面で、右クリックで選択ファイルが InfoMaster に渡されますが、動作が不安定です。今後の課題です。ごめんなさい。

拡張子 m4a ファイル

iTunes に使われている AAC 圧縮 (拡張子 m4a) はタグ取得はできますが、歌集出力、InfoMaster へは転送できません。

ECXEL ファイルを開く時のワーニング

ECXEL に出力したファイル (拡張子 xls) を最初を開く時に「信頼できるかを確認」というメッセージが出ますが、「はい」で開いてください。一度保存すれば、もう出なくなります。

開いた ECXEL,PDF は閉じておく

Excel, PDF 作成で、上書きする場合、そのファイルを開いている場合はエラーで停止します。必ず開いているファイルは閉じておいてください。

あるはずのデータが出力されない

ライブラリデータのファイルと実際のファイルと一致しないことがあります。ファイルの追加、削除、名前の変更により、実際のファイルと、データファイルの不整合が起こります。表示されているけれど実際は削除されていたり、名前が変わっていることがあります。本アプリでは、そのようなファイルはワーニングを出さず、無視して次の処理に進みます。画面に表示されていても Excel や PDF に出力されない場合は、そのファイルが存在していません。新たにライブラリデータを作りなおしてください。

## 9 今後の改良点

現在、ライブラリデータはファイルを作って、起動時に読ませています。確かに、起動は早いのですが、頻繁に追加・削除をするユーザにはその都度、データを作り直さなければなりません。

起動時のたびにデータを作ると、起動に時間がかかります。根本的な解決はデータベース (SQL サーバ) の導入でしょう。マイクロソフトでも SQL サーバの Express バージョン (無料) を提供しています。その利用を検討して行きたいと思います。

InfoMaster との連携が不安定です。本来なら、表示画面の D&D で渡せばベストですが、方法が分かりませんでした。今後の課題です。

## 謝辞

最後になりましたが、卒論前にもかかわらずステキなアイコンを作ってくださった YK さんに感謝します。m4a ファイルタグの取得には QuickTime のライブラリ、PDF 出力には iTextSharp ライブラリを使用しました。優秀なライブラリの公開に感謝と共に敬意を表します。

また、毎度ながらご協力をいただきました札幌学院図書館に感謝いたします。